

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	はやぶさ		
○保護者評価実施期間	令和7年10月1日		～ 令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55名	(回答者数) 45名
○従業者評価実施期間	令和7年10月1日		～ 令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師（臨床心理士）、看護師、保育士と様々な専門的免許を持ったものが常駐しています。そのため、専門的視点から子どもを評価し、個々に合わせた支援プログラムを提供し、柔軟に対応させて頂いています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の専門性を活かし、連携して子どもの様子を観察し、支援方法を随時相談・見直すことで、その子供に合った支援を行っています。</li> <li>・支援内容に関しては、管理者や児童発達支援管理責任者に相談を行い、各々の課題に合わせた支援方法を工夫し、実施しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の専門的視点から子どもの様子を観察し、必要な専門的支援を提供していきます。</li> <li>・職員の研修会への参加や、伝達講習会の実施にて、専門の質を上げていきます。（今年度はS-S法の評価の研修会に参加しています。）</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎サービスがあります。</li> <li>・送迎先が園や自宅なので、普段の様子を直接聞くことができ支援プログラムに活かすことができます。</li> <li>・車内という環境の中で、さまざまな物を見たり、物に気づくことができます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者様や園の先生に対して、療育時の様子を元に日常生活上に起こっている問題を推測し、相談できる機会作りを行っています。</li> <li>・車内の中では、子どもたちに本日の活動内容を伝えることで見通しを立て、目標の共有を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園や自宅での様子の情報共有を朝礼や活動の振り返り時に行い、職員間で共有していきます。また、職員と園、職員と保護者様の情報共有だけでなく、双方の共有を行う機会を作っていきます。</li> </ul>
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも、今年度はSNSを使い情報を全体へ発信する機会が増えていますが、ホームページなど周知が不十分です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用開始当初では、紹介するが、その後、定期的な案内ができていません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの案内をリフレット等に記載するなど、工夫を行っています。</li> <li>・情報の発信をホームページだけでなく、継続、SNSを使用し、必要な情報はお知らせするようにします。</li> </ul>
2			
3			